

学校だより 熱 砂

＜発行＞
令和3年7月6日
発行責任者：
校長 和田 政男

7/1(木), 水泳記録会。今期の水泳学習無事に終了。

合計5回実施した水泳学習の最後に、7/1(木)、水泳記録会を実施しました。

私は中学校の理科教師でしたので、水泳の授業は体育教師が体育の時間に行うものであり、水泳の授業を眺めたのは実は初めてでした。そして驚き、感心したのは、子どもたちがみんな素晴らしく泳ぎが上手なこと（たぶん個人で水泳を習っている児童・生徒も多いのかな？と想像します）。先生たちがみんな上手に子どもたちを指導していること。

考えてみれば、日本ではほぼ全ての学校にプールがあり、環境が整うのであれば水泳は必修なのです。先生方も、中学校・高校の先生は教科毎に採用されますので、教員採用試験に水泳はありませんが、小学校の先生方の教員採用試験には、ピアノ演奏や水泳、体育実技があったはずで、日本の学校教育の優れた一面を見た想いでした。

水泳授業にはライフセーバーも雇わなければならない規則でしたが、ライフセーバーも出番がなくて暇そう。「何で日本の子ども達はこんなに水泳が上手いんだ！」とライフセーバーの方々も驚いているに違いありません。日本人学校の校長としてちょっと鼻高々のひと時でもありました。

子ども達が目いっぱい活動する姿、保護者の皆様にもお見せしたかったです。早くコロナが収束し、学校に保護者を招いて、子ども達の活動の様子を披露したい。その想いを強くした時でもありました。



2 学期開始からプレハブ教室設置

6月に、編入の受入れを一時停止し、この間、1学期で転出する児童・生徒数と2学期から編入を希望する児童・生徒数の正確な把握に努めました。そのようにしないと、日本からの編入希望の問い合わせに対し、受け入れ可能か否かの回答を正確に出来なかったためです。その結果、G5が2学期初めには8名増え、現在の教室には入りきれないことが判明致しました。

この対策として、プレハブ教室を設置し、2学期開始からG5の児童はプレハブ教室で学習することにいたします。

プレハブ教室は8m×12mの広さで、内壁は石膏ボード、断熱材が間に入り、外壁はコンクリートボード。学校がお願いした仕様に従って入り口や窓を配置し、エアコンが4台入ります。ホワイトボード、大型テレビ、Wifi環境を整えます。清水建設さんのご協力のもと、事前に建築の専門家に見いただき、安全性の点で問題ないことを確認しております。居住性の点でも、たぶん満足できるのではないかと想像します。

すでに理事会の承認のもと、発注済みであり、夏休み中に設置工事が行われます。教室の引っ越しは、夏休み中に先生方が行います。ちなみに、G5以外の学年は、一学期通りの教室で引き続き学習します。

受入れ方針が定まりましたので、編入受け入れの一時停止は解除いたしました。

皆様のご理解・ご協力に感謝申し上げます。

夏休みは家庭において成長するとき

児童・生徒の皆さんがバランスの取れた成長をするには、

学校の教科学習をやっていれば十分ということではありません。学校の外での経験も大切。家庭生活も大切。遊ぶことも、普段と異なる場所に出かけることも、様々な人と出会うこと、本を読むこと、スポーツをすること、芸術を楽しむことも・・・、皆さんの経験そのものが、皆さんの人格を豊かに磨きます。

夏休みは、そんな学校での勉強以外の経験を積む貴重な時間です。夏休みに日本での予定があり、すでに日本に一時帰国している児童・生徒もいるでしょう。それも貴重な経験です。学校にこそ通えませんが、ドバイでは出来ない経験をたくさんすることです。2週間の待機期間。無駄な時間の様な気もしますが、本を読む、映画を観る、夏休みの課題を集中的にやってしまう、料理に挑戦してみる・・・工夫次第で密度の濃い時間を過ごせます。

余談になりますが、沢木耕太郎という作家の「深夜特急」という本があります。この本は作者がアジアからヨーロッパまでを、路線バスを乗り継ぎながら旅をした経験をまとめたもので、バックパッカーのバイブルとも呼ばれた本です。（彼は高校時代の夏休み、東北一周の一人旅に出かけており、この体験が彼の旅の原点になっている気配があります。）

私がこの本「深夜特急」に出合ったのは40歳過ぎの頃でしたが、これを読んだとき、作者の体験がものすごく羨ましく、もっと早くこの本に出合っていれば自分の人生も違ったものになっていたかもしれない、とすら思ったものでした。私が日本人学校への派遣に応募してみようと思ったのは、もしかするとこの本がほんの少し影響していたのかもしれない。若いときに、沢山の経験をし、沢山の夢を見、沢山の可能性について思いを馳せること、大切なことだと思います。